

〔趣旨説明〕

経営人類学者、「社史」を書く ——「社史」作成からみえる 「継ぐ」ということ——

同志社大学人文科学研究所第21期第5研究会代表
同志社大学社会学部教授 藤本昌代

本日は同志社大学人文研第105回公開講演会にご参加下さり、誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます同志社大学社会学部の藤本昌代と申します。どうぞよろしくお願い致します。まず、本講演を企画致しました第5部門研究の「伝統産業における事業・家族・制度・技術の継承に関する日・中・韓比較」のテーマについてご説明させていただきます。私どもの研究テーマは、日本、韓国、中国などの東アジア諸国において、極めて重要な問題となっている事業承継につきまして、従来は「事業」（ビジネス）の側面に焦点が当てられ、その背後にある「家族」「社会的制度」「事業に関連する技術や技能、後継者（経営者や職人）の職業継続」などの関連性に関する研究に焦点が当てられて来なかったため、社会学、経営学、文化人類学等の学際的かつ、中国、韓国、日本の研究者による国際的視点から焦点をあてようとするものです。本講演は、経営人類学の観点から企業活動を観察された研究であり、日本の社史文化について述べられるものです。

それでは、続きまして登壇者の先生方のご紹介を致します。本日、「経営人類学者、「社史」を書く―「社史」作成からみえる「継ぐ」ということ―」のテーマでお話くださいますのは岩井洋先生です。岩井先生は帝塚山大学全学教育開発センター教授で、ご専門は経営人類学、宗教社会学で、日本、韓国をフィールドワークし、企業経営について研究してこられました。経営人類学関係のご著書に『经营理念：継承と伝播の経営人類学的研究』、『アジア企業における经营理念の生成・伝播・継承に関する研究』、『テキスト 経営人類学』などがあり、本日、ご紹介いただきます『オルファイズム：岡田良男とオルファ株式会社の挑戦』を含め多数のご著書をご執筆されています。岩井先生は2012～2017年、帝塚山大学学長として大学経営にかかわってこられた経験をもとに『大学論の誤解と幻想』というご著書もご執筆しておられます。また経営人類学とは別に西洋社会をフィールドワークし、民族、民衆宗教を研究してこれらしました。宗教社会学関係のご著書に『目からウロコの宗教―人はなぜ「神」を求めるのか』『グローバル化するアジア宗教』『宗教社会学を学ぶ人のために』があり、現在、宗教を経営の視点から分析する『宗教と経営―宗教経営学の視点から』をご執筆中です。

講演の後、コメンテーターとしてご登壇いただきます三井泉先生についてご紹介させていただきます。三井先生は園田学園女子大学経営学部教授で、ご専門は経営学、経営学史、経営哲学、経営人類学で、特にマネジメント思想における人間、組織、社会の関係にご関心をもたれ、理論と学際的フィールドリサーチの双方か

らこの問題に取り組んでおられます。ご著書に『経営理念：継承と伝播の経営人類学的研究』『アジア企業の経営理念』、『テキスト 経営人類学』など、編集と執筆者の両方からこの分野の研究をしておられます。『社会的ネットワーク論の源流：M. P. フォレットの思想について』も書かれています。後半の二つに書かれています経営理念に関する2冊、全世界の Springer の本の中で上位4分の1に入る大ヒットをされた本を執筆しておられ、経営人類学チームの先生方のご研究が世界中に高い関心をもたれていることがわかりました。4万ダウンロードを超える勢いで世界中の人たちがこの本に注目したということがあります。私も先生方といっしょに研究をさせていただいております。私たちの研究チームですが、「継ぐ」ということをテーマに経営理念にかかわる研究、働く人々の思い、家族、技術など多様な形で継承にかかわる現象に注目していきまして、現在、日本、韓国、中国、東アジア諸国において事業承継の問題が起こっており、この研究会では家族の問題、社会制度、技術、技能、後継者の問題など、たくさん「継ぐ」ということを家制度だけでなく、文化、宗教などを含めて総合的にとらえていかなければ「継ぐ」という人間の行為を理解することができないだろうと学際的に研究者が集まり、発足したものであります。

研究チームに入っている先生方は、1994年、国立民族学博物館で研究プロジェクトを発足した研究会のメンバーでおられ、約30年の長い歴史をもつ研究会で国際的にも注目されている日本の経営理念研究を世界中に発信されています。

岩井先生に本日、お話いただく内容ですが、日本は「社史」大
国といわれ、会社の歴史を記した「社史」は、その会社の永続性
を目に見える形にしたものといえますが、岩井先生は、今年、創
業55周年を迎えるカッターナイフの製造販売会社であるオルファ
株式会社の「社史」作成にかかわられました。創業者岡田良男氏
は1956年、初めてオルファ式カッターナイフを発明されました。
これは現在、世界中で使われているカッターナイフの原型となっ
ています。岡田氏は一般にいう「社史」を嫌い、明確な経営理念
を文字として残されませんでした。岡田氏が残された多くのメモ
や元社員によって語られたエピソードなどから「オルファイズ
ム」ともいえる経営理念や行動指針が浮かび上がってきたとのこ
とです。本講演ではオルファ株式会社「社史」、物語の作成を通
して見えてきた事業を「継ぐ」ことについてお話をいただきます。
それでは岩井先生、よろしく願いいたします。